

Contest

【過去の結果発表】

2009年変奏曲作品作曲コンテスト 結果発表

コンテストへの沢山のご応募ありがとうございました。

入選されました矢吹さん、おめでとうございます！矢吹さんは、2007年、2008年の変奏曲コンテストの入選に続き、3度目になります。

2010年度は、あらたに「コンポーザートライアル2010」を開催するため、作曲コンテストはお休みとなりますが、引き続き新人作曲家の皆さんの素晴らしい曲が発表される事を楽しみにしててください。

入選作品：たそがれクインテット～夕焼けこやけ変奏曲～（作曲：矢吹雄介）
試聴は→[こちら](#)

【コメントとプロフィール】

■楽曲について

「日本の童謡」と「金管五重奏の変奏曲」の両方の魅力を引き出すアレンジを考えてみました。「夕焼けこやけ」が、音頭、演歌、(昔の)アイドル歌手の曲といった懐かしのメロディ風に変えていきます。それぞれの変奏の雰囲気の違いを生かすようにすれば、演奏者にも聞き手にも楽しんでいただけたらと思います。

■プロフィール 矢吹雄介 (やぶき ゆうすけ)

1981年生まれ。滋賀県在住。中学から吹奏楽部等でトランペットを吹く。作曲は独学。

【講評】

■審査員：三澤慶 (ズーラシアンブラス・クラシック担当音楽監督 トランペット奏者、作曲家、侍 BRASS メンバー、2006年度全日本吹奏楽コンクール課題曲作者)

とても明快で、スッキリ聞ける大変素晴らしい作品ですね！しかも日本人の誰もが郷愁を感じる「夕焼け小焼け」が音頭風になったり、昭和演歌だったり、金管の楽しさを熟知していますね。個人的にはVivaceの4ビートをもう少し聞いていたかったのですが、そこが、「敢えて」のおしゃれかも知れませんね。

アレンジ自体も無理が無く、非常に吹きやすく書いてあります。

素晴らしい作品、ありがとうございました。

■審査員：高橋宏樹 (ズーラシアンブラス専属作編曲家 03,05,10年度全日本吹奏楽コンクール課題曲作者)
変奏曲といわれるとワルツだったり短調だったり マーチ風だったりしますが、演歌調は初めて見た気がします。(しかも夕焼け小焼けとこんなにマッチするとは)

音域やパッセージなどの奏者側の配慮はもちろん 聴いている人にとって (特に一般の人) とても楽しめる 作品なのではないかと思えます。

スウィングの部分は個人的にはもっとあっていかと思いました。

強いて言えば最初のテーマがもう少しシンプルで美しくなると よりその後の変奏が生きてくるんじゃないかと思えました。

■審査員：石川亮太 (ズーラシアンブラス専属作編曲家)

変奏をあくまでコメディとして扱う手法は、実演ではとても効果的ですよね。そして、日本風の変奏ばかり (moderatoをアイドル・バラエティ風と解釈すれば) を並べるというのもまた、ありそうでない企画で面白い。聞く人を「クス」っとさせる、良いアレンジだと思います。

■審査員：山口尚人 (ズーラシアンブラス スマトラトラお友達プレーヤー、山金シリーズ楽譜編曲者、新日本フィルハーモニー交響楽団副首席トロンボーン奏者)

楽しかったです。こういうアレンジもって凝ったりカッコつける方向にいくひが多いのに、こっちか！って感じです。まさにズーラシアンブラス的な作品ですね。言うことないです！吹きやすく聴きやすく楽しんで、吹き手もお客さんものるっていうことが出ていると思います。私は大好きなので、これ、どこかで演奏したいです！ひとつだけ、89の和音だけ、凝ろうとしないでいいと思います。

【総評】

今回のコンテストは、特に1次通過作品を中心に実力派の作曲家による、とても手応えのある、また、魅力ある作品が多く集まり、まさに「群雄割拠」といった様相を呈する、非常にハイレベルなコンテストになったように思います。審査をしながら「なるほど！そうくるか！」とか、「うまいなあ～」とかいうことをよく口にしていたように思います。

その中で、今回唯一の入選作品は作曲技術、金管楽器アレンジ、ともに高い次元での完成度を誇りつつ、「金管アンサンブルの楽しさ」をよく理解されていて、金管楽器による「エンターテイメント」として「アンサンブル」を捉えた、非常に優れた、また、価値のある、しかも、楽しい作品でした。アンサンブルの場合、単に作曲家の技術のひげらかし、エゴや好みといった事の押しつけでは不完全で、そこに「演奏者」、何より「聴衆」を楽しませる、心を動かすという目線が必要で、その中でいかに作家の個性を光らせて行くか、が大きな命題になると思います。
(2010.1.27 三澤 慶)